平成28年度「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」（地域会議）１対１対談　開催結果（主な発言内容）　　平成28年8月22日　現在

| | 対談<br>市町名 | 対談項目 | | 各市町長の主な発言内容 | 知事の発言内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 多気町 | 対談項目１<br>新規就農に伴う就農フェアについて | | 国が事業主体で就農フェアを東京、名古屋、大阪等で実施していますが、ブースを出展しようとしても、早期に枠がいっぱいとなって出展できなかったり、県も県内で就農フェアを開催していただいていますが、集客が少ない状況です。<br>ぜひ多気町のほうを見学できるような機会、特に、伊勢いも、柿、松阪牛をPRしていきたいので、三重県主導による近郊の都市部での就農フェアを開催していただくようお願いします。 | 就農フェアについては、別の職業に就いている方の就農だけでなく、移住をしたいという方のニーズもあり、そういう方もターゲットに就農をしっかりPRしていこうと考えています。<br>県で実施している三重県農林漁業就業・就職フェアは、津市の総合文化センターで毎年2回開催していますが、ここ数年、参加人数が毎回100人程度で推移しています。母集団が多くないと色々な就農の働きかけも意味がないので、昨年から東京にある「ええとこやんか三重移住相談センター」をサテライト会場とした参加者募集をしたり、津市内自治会での案内チラシの回覧等によるPR活動をしています。出展者からも集客力アップの要望をいただいていますので、引き続き参加者増加に向けた取組を強化していきたいと考えています。<br>国の就農フェアについても、県や農林水産支援センターが出展を申し込んでいますが、農業法人優先のため、昨年度は2回のみの出展にとどまっています。また、今年度から新たに名古屋等で地域ブロックごとの開催もされているものの、キャンセル待ちの状況なので、国に対し開催規模の拡大を要望していきたいと思います。<br>三重県主導による県外での就農フェアについては、移住とセットで、東京の移住相談センター、大阪、名古屋の移住相談デスクで、事前予約で就農希望がある場合は、県の就農担当者が相談を行うという体制も整えていますので、相談活動、情報提供をさらに強化していきたいと思います。 |
| 2 | 多気町 | 対談項目２<br>町内特産物の六次産業化について | | 多気町の特産物に「伊勢いも」と「柿」があり、平成22年から新規就農者支援ということで、新規就農者に月20万円（年間240万円）を補助する制度を導入し効果がありました。その後、国からも「人・農地プラン」関係の補助金をいただきました。今、若者の就農者が13名ほどいますが、その中で、「伊勢いも」に関わっていこうという方が、新しい人も含めて10数名います。<br>今から30年ほど前は、70～80ha伊勢いもが栽培されていましたが、今は20haを切っています。しかし、値段は20～30年前とほとんど変わらず、付加価値をつけて収益を上げないと若者の新規就農もないので、6次産業化をめざしたいと思います。<br>柿も同様で、タイなどに出荷をして収益を上げてもいるものの、最盛期になると価格は下がってしまうので、全ての柿を収穫し、ペースト状にして、柿を混ぜたスイーツができないかと考えています。<br>先週、東海農政局長にも国の支援をお願いしたところです。また、県の農業振興協議会の中で、普及センターにも協力をお願いしているところですので、県の支援、協力をお願いします。<br>今、伊勢いもの皮むき器、すり機、とろろ汁にする機械を地方創生の中で、整備するようなことができないかということを考えています。そして、パウチ容器にとろろ汁を入れて商品化すれば、1週間ぐらいは保存可能だと思いますので、そういったことへの支援ができないかと考えています。<br>柿のほうは、多気町の医食同源のアドバイザーになっていただいている辻ロパティシエもみえるので、柿を使ったスイーツをやっていきたいと思っています。<br>6次産業にもっと力を入れなければ、多気町の特産物が前を向いていかないので協力をよろしくお願いします。 | 6次産業化は、大変重要な課題だと思っており、三重県6次産業化サポートセンターを設置し、それぞれの生産者、品目に合わせ、個別に対応していくため、農林漁業者からの要望に応じて、6次産業化プランナーを派遣し、事業化に向けた具体的なアドバイス、商品開発、販路拡大など、段階に応じた支援を行っています。<br>併せて、国の6次産業ネットワーク化活動交付金なども活用して、商品開発、販路拡大のためのソフト事業や施設整備、機器などのハード事業の支援も進めているので、ぜひご活用いただければと思います。<br>県内で6次産業化事業計画が、52件認定されており、多気町内でも、元丈の里営農組合、有限会社松本畜産が計画認定を受けています。ほかにも、県単事業やサポートセンター事業もあり、個別に相談させていただきながら、活用をしていただけるよう積極的に支援をしていきたいと思います。<br>柿については、町長の話にあったようにタイに輸出をしていますが、輸送中の劣化防止のための包装の見直しや、マーケットに合わせたパッケージングといった開発もしているので、さらにいい価格で売れるよう販路拡大の支援などをしていきたいと思います。<br><br>まだ全容が判明していませんが、今度の臨時国会で審議される補正予算で上乗せされる地方創生の交付金は、対象範囲はわかりませんが、今までソフトだけだったのが、ソフトに関係するハードについても対象となるようですので、情報収集して、多気町でも活用していただけるように支援をしていきたいと思いま |

平成28年度「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」（地域会議）１対１対談　開催結果（主な発言内容）　　平成28年8月22日　現在

| | 対談<br>市町名 | 対談項目 | | 各市町長の主な発言内容 | 知事の発言内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 多気町 | 対談項目３<br>食のまち多気　魅力創造 | | 多気町は、相可高校との連携をさせていただいており、「まごの店」をつくるときは、県、国の補助もいただき施設ができました。今は安定的にお客も来ていただいています。こういうことも含め、今言いました柿、筍、そして松阪牛、こういった多気町の食の魅力を発信していきたいと思っています。<br>そして、もっとPRしていきたいのが薬膳料理です。当町出身の野呂元丈という八代将軍徳川吉宗の頃のお目見え医師が、薬草を栽培し、提供してということがありましたので、これを活かして、今、多気町の「元丈の館」で、薬膳料理を提供させてもらっています、意外と安く1,200円くらいで食べることができます。薬草園にはいろいろな薬草もあり、こういうことも活かし、多気町の食の中には薬膳がある、豊かな自然の中で発生してくる食材があるということをPRし、もっと「食のまち多気」というのを発信していきたいので、県の協力をお願いします。 | サミットで、相可高校、「まごの店」がPRされ、多気町の食材や日本酒で鉾杉も使われさまざまなPRに繋がったと思っています。<br>県でも平成27年7月に「みえ食の産業振興ビジョン」を策定し、人材育成、商品開発などの部分を考え、担当部署も作り、取り組んでいます。1年くらいやってきて、多気町を含め、食を売りにしている市町があるにもかかわらず、そういうところとの連携が弱いように感じています。これからは、一つの方向性、ビジョンを作ったので、具体化をしていくにあたり、市町と連携し、市町のそれぞれPRしているもの、指針、ビジョンなどと、連携をする取組をしたほうがいいと思っていますので、担当部署にもそのように指示をしていきたいと考えています。<br>面的に市町とも連携した取組になっていることで、販路拡大するときも具体的な話が進みやすく、食のことを求めて集客するときにも面的取組がやりやすいと思いますので、多気町の食のまちの取組と連携する取組、しっかり市町と連携する取組を強化をして、食について三重県もしっかり取り組んでいきたいと思います。<br>なぜ三重県が食をやり始めたのかということについては、優れた食材がたくさんあるということだけではありません。食の関連の雇用が多く、卸売、小売というカテゴリーが1番雇用が多いのですが、その3分の1が食の関係であり、2番目が宿泊、飲食で、3番目が製造業でその中で1番多いのが食料品製造業です。食が三重県の雇用を支えており、「食のまち多気」の取組と連携してPRなども一緒にやっていきたいと思います。 |
| 4 | 多気町 | 対談項目４<br>獣害対策の強化について | | 多気町よりも獣害対策が大変なところもあると思いますが、多気町も違わず、獣害被害の報告を受けています。これは県だけの話ではないので、東海農政局長にも、もっと国のほうも考えてほしいと伝えました。<br>農家の農作物の被害が多いというだけでなく、林家においても植林してもすぐに苗を食べられるということもあり、多気町では、昨年イノシシ約230頭をはじめ、シカ、サルを捕獲し、処分をしていますが、全然減りません。以前よりも捕獲数は増えているのに数が逆に増えている状況で、農家の人がパイプで作った網の中で農業をしなければならないといった状況です。<br>また、年間1千万円を超える補助金を出して対策をしていますが、一向に減らず、東海農政局長に国も根本的な対策をしてほしいとお願いしました。罠、柵をし、捕獲して処分という方法は、どれだけやっても意味がなく、動物は種の保存のため、捕ったら捕っただけ増やそうとするので、根本的に子どもが増えないような対策が必要だと思います。県だけの話でなく、環境団体を含め、国のほうでも繁殖しない方法をお願いしたいと思います。 | 獣害対策は、平成23年に知事に就任して、平成24年から獣害対策課を作り取り組んでいます。当初は、8億円を超える農林水産被害がありましたが、現在は5億円台に下がってきています。被害総額は減っているものの、被害件数は増えており、侵入防止柵が張れるようなところは被害が減っていますが、そういうことができない小さな農家などの被害は増えていると認識しています。大量捕獲ができる仕組みやサルの行動域調査のための発信機装着など、色々な技術開発を進めていますが、根本的な対策については、国の支援が必要だと思っていますので、しっかり国に話をしていきたいと考えています。<br>多気町に侵入してくるサルについては、大台町から来るサルというのもあると思っていますので、複数市町に亘るサル群の管理というのは、県がしっかりリーダーシップを発揮しなければならないと思っており、多気町、大台町の関係者の協議の場や計画的なサルの捕獲と群れの管理に向けた支援をしっかり進めていきたいと思います。さきほど話のあった根本的な対策については、国の支援も必要で、今回の経済対策の中でも、獣害対策はあがっていますので、補正予算などでどのようなものが対象となってくるかを見て、しっかり活用して獣害被害の軽減に向けて、しっかり取り組んでいきたいと思います。 |

平成28年度「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」（地域会議）１対１対談　開催結果（主な発言内容）　　平成28年8月22日　現在

| | 対談市町名 | 対談項目 | | 各市町長の主な発言内容 | 知事の発言内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| 5 | 多気町 | 対談項目４<br>獣害対策の強化について | | 県のほうでも数億円を超える予算を計上されており、また町のほうでも予算を計上しています。駆除した分の被害は少なくなる可能性はありますが、生産効果の上がらないお金です。被害はそのままで、現実的に農作物の収益は上がっておらず、何とか根本的に変えないといけないと思います。<br>サルも町でかなりの頭数を捕獲し処分していますが、隣の町からやってきます。イノシシも同じで、川向いから泳いで渡ってきます。シカは夜はあまり動かないらしく、銃での夜間の捕獲が国のほうで認められるようになったようですので、夜にもっと捕獲するようなことも考えたいと思います。イノシシ、シカは銃で捕獲する必要があり、サルは檻で捕獲しなければなりませんが、捕っても捕っても他所からやってきます。前回も話をしましたが、今、高崎山では避妊薬を使って実験していますが、あまり効果もないみたいだと聞いていますので、繁殖意欲を削ぐような薬があればと思っています。 | 町長から話のあった大分県の国立公園の大分高崎山自然動物園で、ニホンザルを対象に平成24年度から避妊薬の処置をやっているみたいですが、大分市役所に聞き取りをしたところ、避妊薬による個体数調整の効果は見られないとのことでした。根本対策としてどのようなものがあるのか、他県でも繁殖部分の根本対策について、成功事例を聞いていないので、国、科学者なども含め、意見交換していきたいと思います。 |
| 6 | 多気町 | 対談項目５<br>バイオマス発電への広域的な木質バイオマス供給体制構築について | | 本町では、工業団地に誘致したバイオマス発電所が本年6月末に稼働し、1日に約200t、年間6万5千～6千tの木材チップを燃やし、平成31年度開業予定のアクアイグニス多気（仮称）の中にも、熱電併給型のバイオマス発電所建設の計画が進められています。<br>地域の集落に伸びてきている竹や木を切ってもらう地元の団体を作っており、今、多気町で15団体くらいの組織が作られています。個人の登録は200名ほどです。そこで、集落周辺の竹や木を切って800tくらい集まっています。現在、軽トラ1杯約2千円の補助金を町が出して集めてもらっています。これにより、里山が広がり獣害対策にも繋がるので、取組を進めています。<br>集落周辺の木などで、持ち主が高齢者だったり、不在であったりして、切ってもらえず荒れてきているところについては、アシスト制度を始めました。まだ普及が進んでいないので、来年また進んでいくような制度に取り組んでいきたいと思っています。<br>県内に何ヶ所かバイオマス発電の計画があり、過密状態で、木質バイオマスが逼迫することは避けられない状況です。木質バイオマスの安定供給について、県の協力をお願いします。 | 木質バイオマス発電所が今年から新たに運転を開始して、現在県内に3カ所稼働しているということと、また新たな計画を持っているところがあるので、原料の供給というのは喫緊の重要な課題だと思っています。<br>未利用のもの、生活の支障になっている竹などの利用とあわせて、県の林業振興にも繋げていきたいと考えています。発電所が増え、県内で供給が間に合わなくなり、他県のものを使い始めて、県内のものを使わなくなるというようなことでは、意味がないので、しっかり原料供給の仕組みを整えていくことは重要だと思っています。現在、枝葉などの未利用資源の有効利用などのために路網の整備、高性能林業機械の導入、木質バイオマス供給設備の整備、主伐促進のための低コスト造林、枝葉などを現地でチップ化して運送する方法を各地域の事業体と連携して、広域で集荷をするなどの色々な取組を行っています。<br>町長の話にあった多気町独自の仕組み、伊勢志摩地域を含む広域の森林から供給する新たな仕組みづくりにも着手するということで、大変心強く思っています。<br>せっかく稼働してもらった木質バイオマス発電であり、木質バイオマス発電のいいところは、先ほどの林業振興のように雇用につながる発電だということが一番大きなところだと思っており、原料供給のために雇用が生まれるというところがいいと思います。それがうまく稼働するよう、また原料供給で雇用がしっかりできるよう県としても色々な支援や、広域連携で原料供給するなどの支援やサポートもしっかりやっていきたいと思います。 |